

「有島武郎の理想」を具現化、そして今こそ光を!!

岩内町大浜八ノ六  
ニセコ町有島九十ノ五十二  
今泉明

有島公園内にある菊地橋や有島謝恩会館の看板文字、そして謝恩会会長、菊地久直の文字を見ると、義父と一緒に飲んだお酒の席のことを思い出します。

私の妻の実家は、有島百番地で、まさに有島記念館の五十メートル前にありました。有島武郎が農地開放をした時の小作人で、それ以来、農家をしながら、その農地や、有島記念館、そして謝恩会館をずっと見守り続けてきました。残念ながら、菊地家は離農し、その土地をニセコ町に譲り、現在のギャラリーや有島記念公園になっています。

私は妻と一緒に、思い出の地である有島記念公園の上に新たに土地を求め十年前に、セカンドハウスを建てました。

その建物のテーマは「幸せの共有」でした。

有島武郎が「相互扶助」の精神で空気、水、土地はみんなのものであると唱えていた様に、私達は、有島の人達や、農繁期を終えた皆さんが、この建物で憩いながら、少しでも「幸せ」を共有できればいいナアと思い、この家を建てました。

実際に、私達の生き方で、有島武郎の思いを具現化していることを、二、三挙げたいと思います。

私達が建てた家は、現在、息子がカフェとして使っています。カフェの名前は、「バーチ・ツリー・カフェ」です。私の息子（有島武郎の小作人である祖父の孫）がカフェの名前を付ける時に、有島武郎のことを調べました。有島武郎は、白樺派（理想主義）で、大正期を代表する作家でした。その白樺（英語で、バーチ）からカフェの名前をとったそうです。それを知った時、私は、息子が仕事を通して、人々と支え合って生きていくという有島の精神を少しでも受け継いでくれる様な気がしてとても嬉しく思いました。

次に、私の長女が生まれ、名前を付ける時に、私のふる郷（岩内町）と妻のふる郷（ニセコ町有島）との出逢いを、岩内の漁師画家木田金次郎と作家有島武郎との出逢いに置き換え、作品「生まれ出づる悩み」の最後の一節から引用しました。

君よ、春が来るのだ  
冬の後には、春が来るのだ  
君の上にも、確かに、正しく、力強く  
永久の春が、ほほえめよかし  
僕は、ただ、そう心から祈る

娘の誕生日が一月二十二日で「大寒」の翌日でありましたので、「春が待ち遠しい」「遥か彼方に、そして世界に翔いてほしい!!」という願いから「はるか」と名付けました。

以上、二つの個人的に有島武郎への思いを述べました。

最後に、私が「有島武郎の理想、今こそ光を」ということに関して、私の願いや夢をまとめてみました。

有島さんが解放して下さった自然物（バーチ・ツリー・カフェの周囲にある豊かな美しい空間、そして楽園）を、私は全ての人達へ解放出来たらいいナアと思っています。

病んでいる人や、親子、愛を育てている恋人達、もっともっと幸せになりたいと思っている人など、全国の人たちが、この有島の地にやって来て、有島の世界を知り、勇気をもらい、ニセコの美味しい特産物をいっぱい食べて、そして希望を持って再び帰るといったそんな風な空間を、私は、今、作りつつありますが、出来るだけ早く実現できたらいいナアと思っています。

今回の「有島武郎の農場解放宣言文」は、私にとって、改めて協力一致と相互扶助の観念を具現化していく一助になりました。

有島武郎が私達にとって「永遠の存在」であります様に、心からそう祈っています!!

追伸、私は三月四日有島記念館の前で、妻にプロポーズしました!!（3月4日は有島武郎の生まれた日です）